



新旧入り乱れた イスラム・アラブの世界

丸紅サウジアラビア会社 星野 益輝



砂漠に咲く花アイリス。
昼になると一斉に開花する

皆様の中にはサウジアラビアと聞くと砂漠にラクダ、そして豊富な石油によるお金持ちの国家というイメージを持っている方が多いかと思えます。これに加えサウジアラビアは世界で一番イスラムの戒律を厳しく守っている国でもあります。今でも観光客はほとんど受け入れておらず、仕事か聖地への巡礼以外の入国が難しい国です。よって普段うかがい知ることが難しいサウジアラビアの複雑な生活環境についてご紹介します。

①イスラムの戒律

サウジアラビアではイスラムの教えに基づき、お酒や豚肉は一切販売されていません。また、女性は外国人であっても肌を見せてはならず、全身黒い服(アバヤ)をまとい、髪もスカーフで隠さなければなりません。また女性は車を運転することも許されていません。

一日五回三〇分間、お祈りの時間が

あり、この時間はすべてのお店やレストランがシャッターを下ろし、店を閉めることになっています。お祈りの時間は毎日少しずつ変わり、この時間を把握していないと三〇分間お店の外で待つこととなります。私も何度もお店の前で待たされたことがあります。このように同じイスラム国でもバーレーンやドバイとは大きく異なり、外国人も教えを守ることが求められます。

②生活環境

多くの日本人は、大きな壁に囲まれ、ゲートにサウジ軍が駐留している外国人居住区(コンパウンド)に住んでいます。この中ではアバヤは着用しなくてもよく、テニスコートやプールもあるなど多少の自由があります。



サウジ王家が初めて都と定めた町の遺跡「オールドディライヤ」

③休日の過ごし方

イスラムの教えによりコンサートや映画など人が集まるイベントは禁止されており、休日はショッピングかゴルフ場に行く方が多いようです。ショッピングはスークと呼ばれるアラブの世界にどっぷりと浸れる市場があり、また欧米型の大きなショッピングモールや高さ約三〇〇層のタワーの中にルイ・ヴィトンなどが入った高級ショッピングセンターもあります。

また、ときには砂漠に出かけて、バーベキューをしたりラクダを見に行ったりすることもあります。昔ながらのアラブの世界と、原油マネーで潤い発展した町並みが共存している、不思議な国の状況が少しでも伝わりましたでしょうか。



モールの中にヤシの木が生えている巨大なショッピングセンター